



よし お まさ き
吉尾 昌樹 議員

防災対策

避難タワー スロープ設置は 改善に向けた方法を検討

問 断水対策の一つとして、井戸の活用や避難所対策は、県でもあと30年の間に起こるであろう南海トラフ地震や、予想できないような自然災害に

対応できるよう準備を進めてきていると思うが、防災や自然災害に対する対策には、終わりはない。災害に対する一時避難所にしても、雨風がしるげる最低限の対策や、車椅子でも上がれるように避難タワーへのスロープ設置も必然だと思う。また、地震の影響を受けない新しい避難道の検討も必要だと思う。区長や関係者と避難道の再度の見直しについて問う。地区として必要性、緊急性があるから要望している。前向きな検討を。

答 村越情報防災課長

ほとんどの避難場所には、雨風をしのぐ屋根等がないことが課題となっている。約200カ所の避難場所全てに屋根等を整備することは財政的に難しい。地区防災計画の取り組みとして、各地区と協議の上、ビニールハウスの設置など、環境改善に向けて取り組む。現在、100カ所の井

スロープ設置が待たれる避難タワー（新町）



答 大西町長

戸について、今後は、地図等で可視化し、防災対策に活用する予定。新たな避難道については、新規避難道整備基準に基づき、整備する。また、避難タワーへのスロープ設置については、改善に向けた方法を検討していく。

教育問題

いじめ・不登校への対応は 相談体制の整備 充実へ

問 文科省の調査によると、全国の小中高と特別支援学校の不登校、いじめも11年連続で増えているという。全国では、小中学校の不登校が約35万人、いじめも、約73万件

になっていて年々増加状態にあるとしている。いじめについては、自殺などへつながる重大ないじめが1306件で、このうち4割ほどは、学校がいじめとして認知していなかったという事で、また、不登校人数の増加要因の一つとして不登校に対する理解が広まり、無理に学校へ行かせなくともいいと考える保護者が増えているということも出ていた。

これらを含め、町内小中学校の不登校やいじめの現状と対応は。

答 岡本教育次長

町内の各学校では、随時、校内支援会を開催し、長期欠席児童の動向調査を毎月行い、未然防止及び対応を図っている。その内容は、早期支援やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善、相談体制の整備や一人ひとりに合わせたサポート体制の構築に取り組んでいる。

いじめについては、アンケート調査、生活日誌や子どもたちの心を知れるICT活用の日々の些細な変化への気づき等、早期発見に努めている。未然防止策として、道徳、特別活動等を中心とした日々の仲間づくり、いじめに對する共通理解を図る職員研修、相談体制の充実等に取り組んでいる。